

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第29週〔7月19日～7月25日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>  
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

## 検査速報 A香港型(AH3)インフルエンザウイルス検出

県内では第10週に新型インフルエンザウイルス(AH1pdm)が検出されて以降、インフルエンザウイルスの検出はなかったが、第29週に中央東福祉保健所管内の医療機関でインフルエンザ(簡易迅速キット A型陽性)と診断された患者から今年初めて季節性インフルエンザウイルスのA香港型(AH3)が検出された。県内の季節性インフルエンザウイルスの検出はA香港型が昨年の第30週、Aソ連型(AH1)が昨年の第34週に検出されて以来である。昨年の第36週以降、四国地域での季節性インフルエンザウイルスはA香港型が香川県で1件今年の第28週に検出された以外、Aソ連型及びB型は検出されていない。また、Aソ連型は全国でも検出されていない。

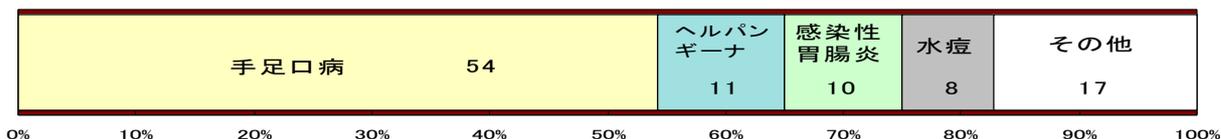
## 県内情報

### ○ 患者情報総評

#### 警報発令疾患：手足口病

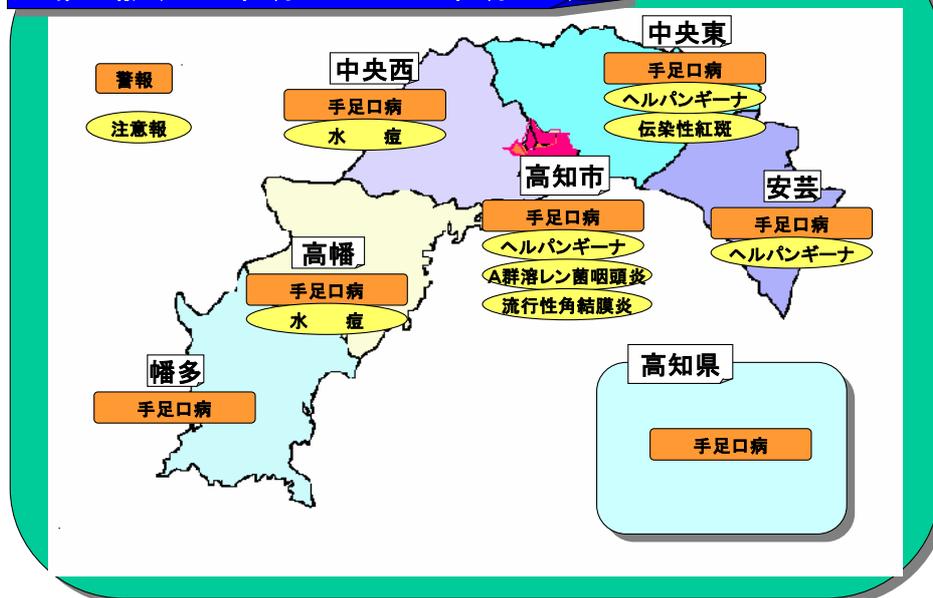
- 週を通して晴れの天気が続き、日中は30℃を超える真夏日となった。
- 手足口病(高知市：警報→警報，幡多：警報→警報，高幡：警報→警報，中央東：警報→警報，中央西：警報→警報，安芸：警報→警報)は全ての地域で減少し、総数は前週の7割に減少した。
- ヘルパンギーナ(安芸：注意報，高知市：注意報→注意報，中央東：注意報)は推移が注目されたが、第26週以降減少を続けており、今週は県全体では注意報値を下回った。
- 水痘(高幡：注意報，中央西：注意報)は中央西，高幡，幡多で増加し、総数はやや増加した。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(高知市：注意報→注意報)はやや減少したが、高知市では注意報値を越す流行が続いている。

上位疾患構成図



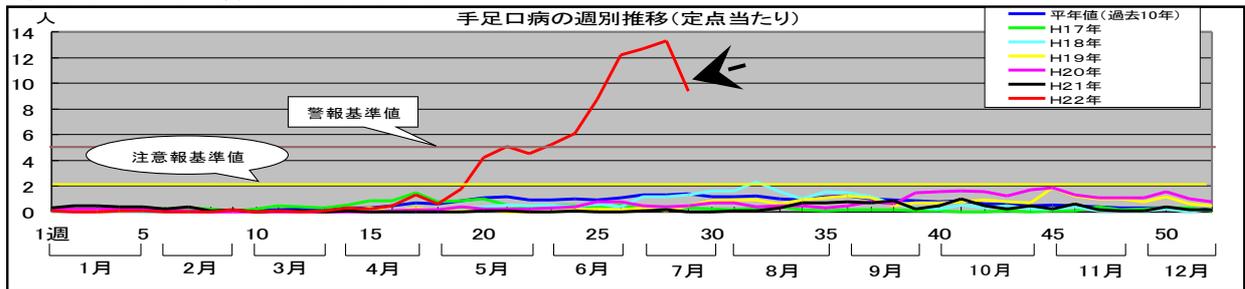
## 地域別感染症注意報・警報発生状況

第29報 (2010年7月19日～2010年7月25日)



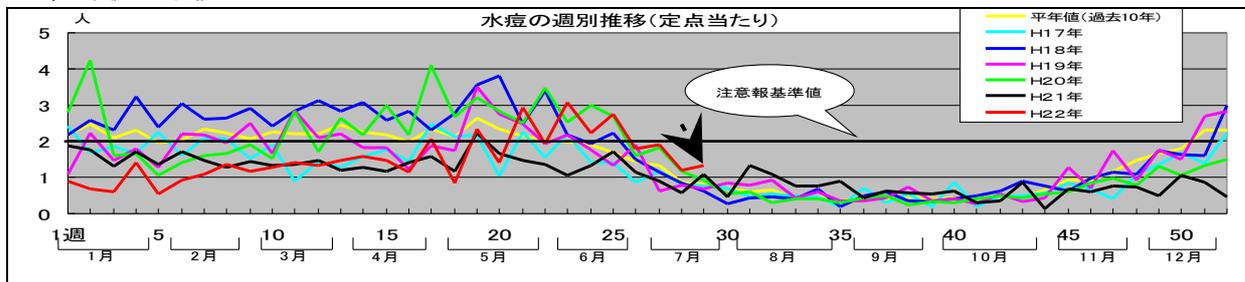
**手足口病：今週9.37（注意報値：2.00 警報値：5.00）**

今シーズンは、例年よりも立ち上がり早く、また近年にはみられない大流行となった。今週は全ての地域で減少し、総数もようやく減少に転じた。しかし、依然として警報値を大きく超しており、今後もしばらくは警戒が必要である。



**水痘：今週1.33（注意報値：2.00 警報値：4.00）**

中央西と高幡では注意報値を越し、総数はやや増加した。例年通りであれば減少傾向となる時期であり、今後の推移が注目される。



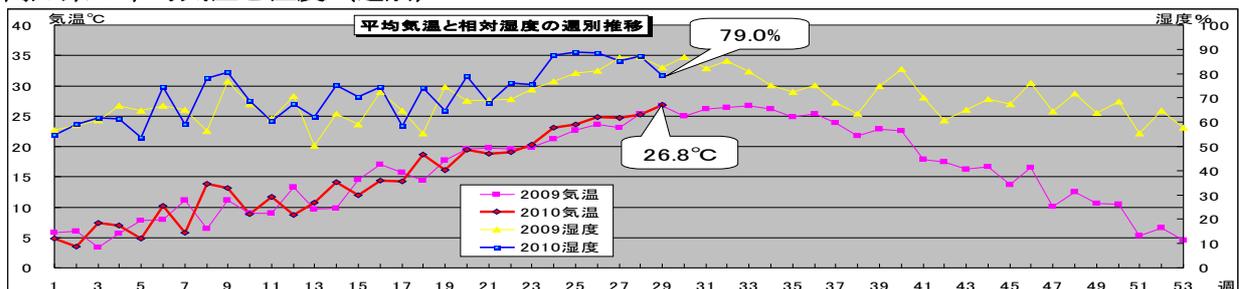
○ **検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
27	感染性胃腸炎	8歳女	高幡	<i>Campylobacter jejuni</i>
27	感染性胃腸炎	8歳男	高幡	<i>Campylobacter jejuni</i>
29	感染性胃腸炎	4歳男	高知市	<i>Adenovirus 40/41</i>

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 2例（78歳男）《安芸》（68歳男）《幡多》（今年85例）

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

《大井田病院小児科》：マイコプラズマ肺炎 2例（8歳男, 10歳女）

《さたけ小児科》：膿痂疹 5例（1～4歳男女）

高幡：

《もりはた小児科》：手足口病の流行が続くが、減少傾向

中央西：

《石黒小児科》：単純ヘルペス 1例（15歳男, 61歳女）

《くぼたこどもクリニック》：手足口病の1例（9歳男）はいの町,  
2例（3歳, 8歳男: 兄弟）は仁淀川町  
感染性胃腸炎の1例（4歳女）は須崎市  
マイコプラズマ肺炎 1例（6歳女）

## 高知市：

《福井小児科・内科》：伝染性膿痂疹が多発している

《けら小児科・アレルギー科》：カンピロバクター腸炎 2例（50歳女、16歳男）

サルモネラ腸炎（0-7群） 1例（4歳男）

アデノウイルス扁桃炎 3例（1歳男:2例、4歳女）

百日咳の1例（13歳女）は東浜株160倍、山口株640倍、DPT4回済み

## 中央東：

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（32歳女）

《早明浦病院小児科》：伝染性紅斑が小学生～大人に流行中

## 全国情報第27週（7/5～7/11）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核308例

3類感染症：細菌性赤痢5例、腸管出血性大腸菌感染症144例（有症者100例、うちHUS 6例）

4類感染症：A型肝炎5例〔\*アラート情報を発出した第10～27週の累積報告数は230例（劇症肝炎6例、うち死亡1例）となり、都道府県別では、福岡県28例、東京都26例、広島県25例、兵庫県18例、神奈川県15例、埼玉県13例、大阪府10例の順に多い。報告数は、第22～25週は6～9例で推移し、第26週0例、第27週5例となったため、今週でアラート解除と判断する。〕、オウム病1例、つつが虫病3例、デング熱1例、マラリア1例、ライム病1例、レジオネラ症21例

5類感染症：アメーバ赤痢12例、ウイルス性肝炎（B型）2例、急性脳炎1例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、後天性免疫不全症候群19例（AIDS 6例、うち死亡1例、無症候13例）、ジアルジア症1例、梅毒6例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん2例、麻しん16例

報告遅れ：E型肝炎1例、オウム病2例、急性脳炎5例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

### ◆腸管出血性大腸菌感染症（2010年7月14日現在）

2010年の腸管出血性大腸菌感染症報告数は、例年同様に第20週から増加し始めた。第22～24週にかけて、三重県の中学・高校における大規模な集団感染事例（189例）が発生したことで一時的に報告が急増した。その後いったん減少したが、第25週91例、第26週103例と再び増加し始め、第27週は144例であった。本年第27週までの累積報告数1,302例は、2000年以降の各年同期間の累積報告数と比較して2001年に次いで2番目に多い報告数である（2000年1,083例、2001年1,481例、2002年1,161例、2003年743例、2004年1,026例、2005年1,068例、2006年1,036例、2007年1,234例、2008年1,169例、2009年1,029例）。

第27週に報告のあった144例は、有症状者が100例（69%）、無症状病原体保有者が44例（31%）であった。都道府県別にみると、愛知県（29例）、三重県（16例）、秋田県（15例）、東京都（10例）からの報告が多かった。愛知県と三重県では、第26週（愛知県18例、三重県6例）からそれぞれ報告数が増加しており、そのほとんどがO157 VT1・VT2である。また秋田県では、第26週から高齢者福祉施設でO157 VT1・VT2の集団感染事例が発生し、これまでに計16例の感染が報告されている。性別では男性62例、女性82例であり、年齢群別では0～9歳35例、10～19歳と20～29歳各21例、30～39歳20例の順に多かった。腸管出血性大腸菌感染症の重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症者は、6例（1歳、3歳、4歳、30代、70代、90代各1例）報告され、すべて女性であった。

第1～27週の累積報告数1,302例についてみると、報告の多い都道府県は、三重県（221例）、福岡県（112例）、東京都（100例）、愛知県（90例）、大阪府（76例）であり、性別では男性628例、女性674例、年齢群別では10～19歳326例、0～9歳322例、20～29歳201例の順に多い。三重県の中学・高校における集団感染の他に、最近では第22～23週に埼玉県の保育園（10例）で、第23～24週に福岡県の保育園（27例）で集団感染事例が発生している。HUS発症者は累計28例報告されており、性別では男性12例、女性16例で、年齢群別では0～4歳19例、10～14歳2例、15歳以上7例であった。死亡例は1例（90代男性、O157 VT1・VT2、HUS発症せず）報告されている。

今後、毎年本症が数多く発生する夏季を迎えて、その発生動向には注意が必要である。食肉の十分な加熱処理などにより、食中毒の予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが重要である。

### ◆手足口病患者から検出されているエンテロウイルス 2010年（2010年7月15日現在報告分）

エンテロウイルス71型（EV71）は、過去1997、2000、2003、2006年と3年周期で増加を繰り返している。2009年の報告は少なかったが、2010年に入ってから例年より早い時期に検出されており、第26週までに高知県67件、鳥取県34件、大阪府25件、広島県19件、大分県18件、山形県、愛知県、愛媛県各12件、兵庫県、奈良県、和歌山県各9件、栃木県、島根県各8件など西日本を中心に28府県から284件の検出が報告されている。このうち、手足口病患者から233件、無菌性髄膜炎患者から10件、ヘルパンギーナ患者から6件が検出されている。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(28週)	高知県(29週末累計) H22/1/4~H22/7/25
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ									181 ( 0.04)	2,546 ( 53.04)
小児科	咽頭結膜熱			2	1	1	4	8 ( 0.27)	2 ( 0.07)	1,077 ( 0.36)	71 ( 2.37)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	3	25			1	32 ( 1.07)	39 ( 1.30)	3,185 ( 1.05)	667 ( 22.23)
	感染性胃腸炎	1		31	9	1	9	51 ( 1.70)	88 ( 2.93)	10,690 ( 3.54)	6,867 ( 228.90)
	水痘		9	12	10	7	2	40 ( 1.33)	36 ( 1.20)	3,759 ( 1.24)	1,322 ( 44.07)
	手足口病	10	44	134	17	16	60	281 ( 9.37)	400 ( 13.33)	11,892 ( 3.94)	2,611 ( 87.03)
	伝染性紅斑		11	5				16 ( 0.53)	12 ( 0.40)	1,737 ( 0.57)	131 ( 4.37)
	突発性発疹		4	4	2	2	1	13 ( 0.43)	15 ( 0.50)	2,012 ( 0.67)	349 ( 11.63)
	百日咳			3	1			4 ( 0.13)	1 ( 0.03)	167 ( 0.06)	41 ( 1.37)
	ヘルパンギーナ	5	14	26	4	3	3	55 ( 1.83)	62 ( 2.07)	19,653 ( 6.51)	847 ( 28.23)
	流行性耳下腺炎		3	3				7 ( 0.23)	3 ( 0.10)	4,322 ( 1.43)	141 ( 4.70)
	RSウイルス感染症									143 ( 0.05)	760 ( 25.33)
眼科	急性出血性結膜炎									18 ( 0.03)	2 ( 0.67)
	流行性角結膜炎			4				4 ( 1.33)		478 ( 0.71)	38 ( 12.67)
基幹	細菌性髄膜炎									7 ( 0.02)	7 ( 1.00)
	無菌性髄膜炎			3				3 ( 0.43)		30 ( 0.07)	12 ( 1.71)
	マイコプラズマ肺炎								4 ( 0.57)	153 ( 0.33)	43 ( 6.14)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 ( 0.14)	2 ( 0.29)	18 ( 0.04)	16 ( 2.29)
計 (小児科定点当たり人数)	19 ( 9.50)	88 ( 12.57)	253 ( 22.27)	44 ( 14.67)	30 ( 15.00)	81 ( 16.20)	515 ( 16.90)				
前週 (小児科定点当たり人数)	28 ( 14.00)	117 ( 16.71)	347 ( 31.00)	55 ( 18.33)	28 ( 14.00)	89 ( 17.80)		664 ( 21.93)	59,522	16,471 ( 513.28)	

定点当たり

第29週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(28週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ									0.04
小児科	咽頭結膜熱			0.18	0.33	0.50	0.80	0.27	0.07	0.36
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	0.43	2.27			0.20	1.07	1.30	1.05
	感染性胃腸炎	0.50		2.82	3.00	0.50	1.80	1.70	2.93	3.54
	水痘		1.29	1.09	3.33	3.50	0.40	1.33	1.20	1.24
	手足口病	5.00	6.29	12.18	5.67	8.00	12.00	9.37	13.33	3.94
	伝染性紅斑		1.57	0.45				0.53	0.40	0.57
	突発性発疹		0.57	0.36	0.67	1.00	0.20	0.43	0.50	0.67
	百日咳			0.27	0.33			0.13	0.03	0.06
	ヘルパンギーナ	2.50	2.00	2.36	1.33	1.50	0.60	1.83	2.07	6.51
	流行性耳下腺炎		0.43	0.27				0.23	0.10	1.43
	RSウイルス感染症									0.05
眼科	急性出血性結膜炎									0.03
	流行性角結膜炎			4.00				1.33		0.71
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎			0.60				0.43		0.07
	マイコプラズマ肺炎							0.57		0.33
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14	0.29	0.04
計 (小児科定点当たり人数)	9.50	12.57	22.27	14.67	15.00	16.20	16.90			
前週 (小児科定点当たり人数)	14.00	16.71	31.00	18.33	14.00	17.80		21.93		

## 2010年週報推移(定点当たり)

